

メジャー・ペンタとマイナー・ペンタ

まずはペンタニック・スケールとは何ぞやってところを押さえましょう。

ペンタニック(pentatonic)とは5音音階の事です。メジャー/マイナー・スケール、いわゆるドレミ~は7つの音で出来た7音音階、ペンタニックは5つの音階でできたスケールを指します。

ギターで弾きやすいキーの一つである Key=E でまずは考えます。

音程定規でペンタの音使いを確認します。(Key=E)

	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A
メジャーペンタ			R	2	3	④	5	6	⑦	R			
マイナーペンタ			R	②	m3	4	5	⑥	m7	R			

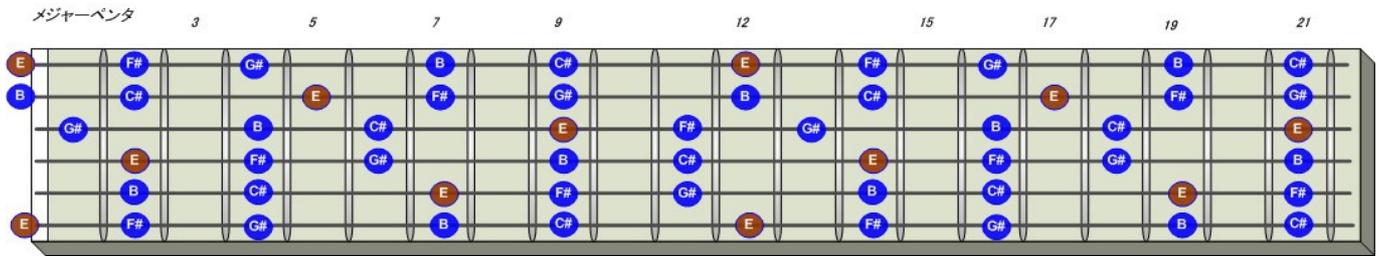
メジャー・ペンタはメジャー・スケール(7音音階)との比較で捉えると、4度と7度の無い音階である事が分かると思います。4度と7度を抜く事から、ヨナ抜き音階なんていう呼び方もあるみたいです。

マイナー・ペンタはマイナー・スケール(全半全全半全全ですよ)から2度と6度抜き(ニ口抜き)。

ちなみに、7音音階のメジャー・マイナー・スケールに平行調の関係があるようにメジャー・マイナー・ペンタニック・スケールにも平行調の関係があります。Eメジャー・ペンタの場合、平行調はC#マイナー・ペンタです。

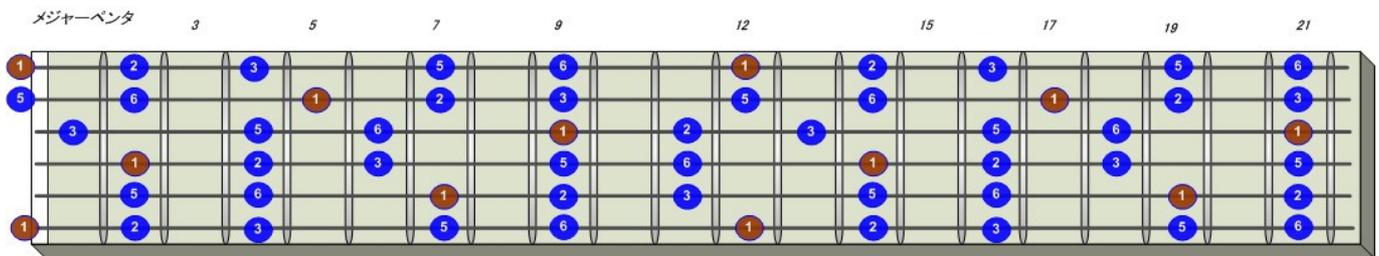
メジャー・ペンタトニック・スケールのポジションを押さえる

ギターの場合、指板上で視覚的に捉えた方が分かりやすいし応用も利かせやすいので、ペンタトニック・スケールのポジションを押さえましょう。

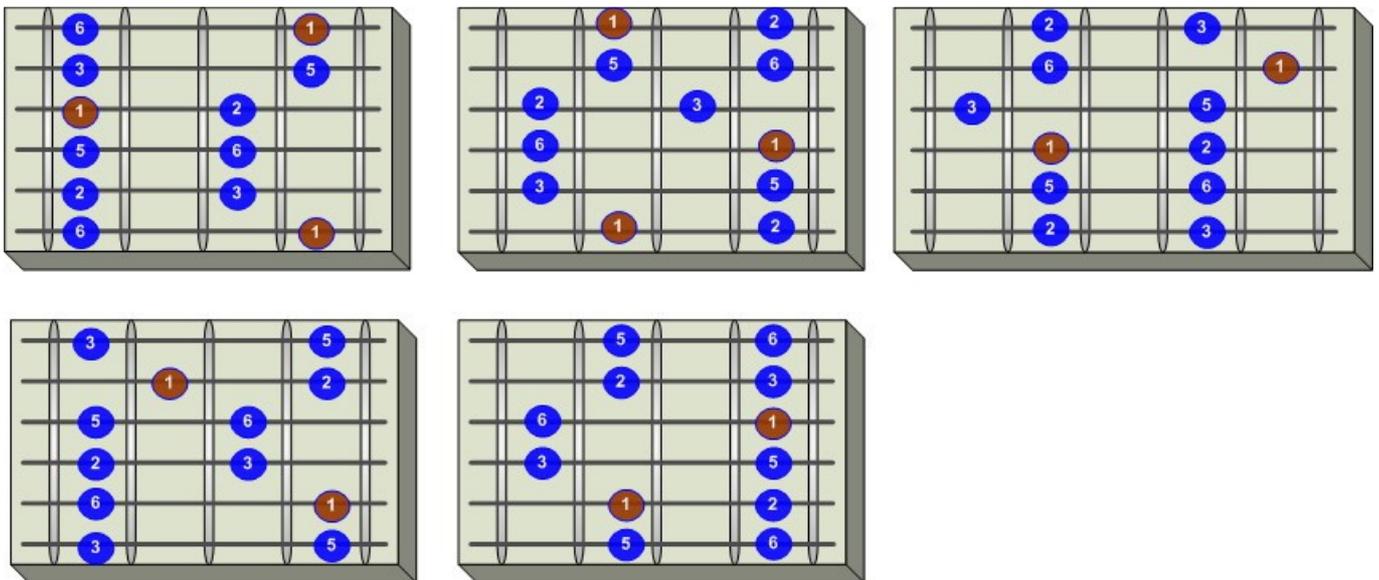


Key=E のメジャー・ペンタトニックのポジションと音名です。

この先では度数での把握が重要になって来るので、ルートからの音程差で表記したダイアグラムも作りました。



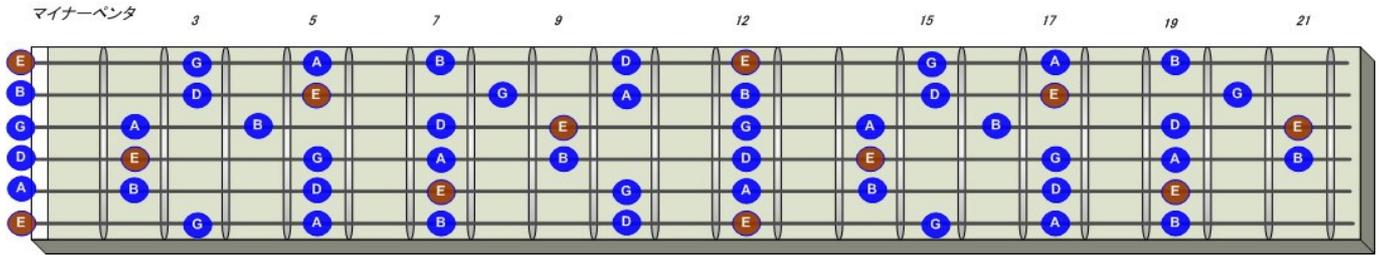
ペンタトニックの場合、5つのポジションごとにブロック分けして覚えるのが定石です。



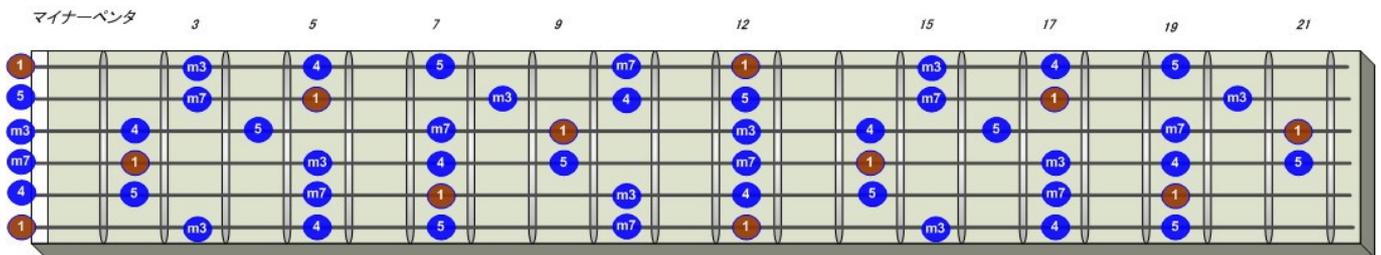
どのブロックが指板上の何フレット目と対応しているのかは見れば分かりますよね？

マイナー・ペンタニック・スケールのポジションを押さえる

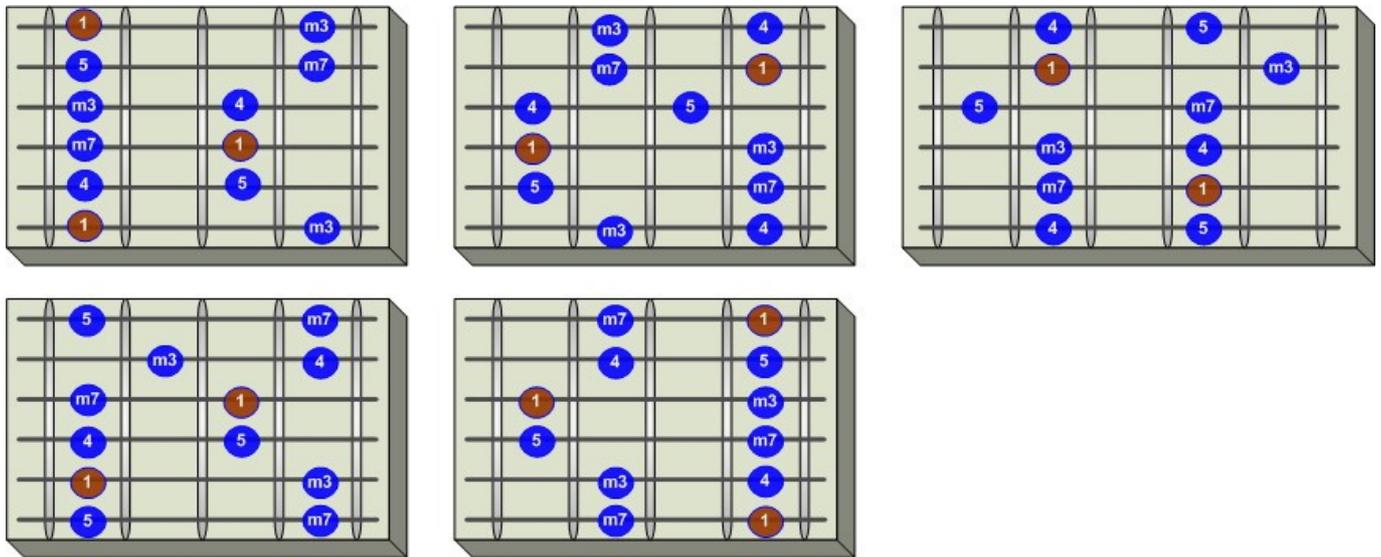
今回は Key=E のマイナー・ペンタです。



音名だけでなくルートからの音程の図もどうぞ。



さらに、5つのポジションに分解した図です。



平行調と同主調

ここまで見て、メジャー・ペンタとマイナー・ペンタがまったく同じパターンで出来ている事に気づいたでしょうか？ルートを取っている位置が違うものの、ダイアグラムとして現れてくる形はまったく一緒です。

前にも言いましたが、ペンタニック・スケールにもメジャーとマイナーの間には平行調の関係があります。

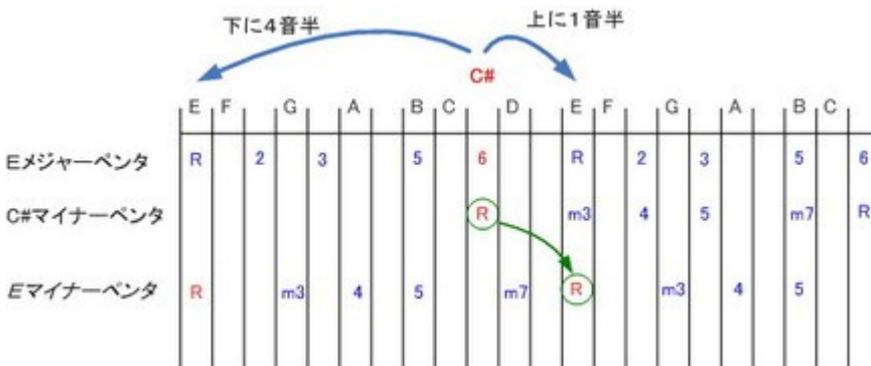
例えば、Eメジャー・ペンタは E - F# - G# - B - C# - E ですが、これをC#から始めると、C# - E - F# - G# - B - C# ですよね。そしてこれはC#マイナー・ペンタニックとまったく同じものです。

つまり、あるメジャー・ペンタを6度の音(5個目の音)から始めると平行調のマイナー・ペンタになり、また、あるマイナー・ペンタを2度の音(2個目の音)から始めると平行調のメジャー・ペンタになるという関係があるわけです。

では、同主調の場合はどうなっているのでしょうか？

同主調とは、同じルートを持ったメジャーとマイナーのスケールの事です。例えばEメジャー・ペンタとEマイナー・ペンタの関係の事です。

結論はとても単純です。Eメジャー・ペンタの平行調はC#マイナー・ペンタなので、EとC#の間にある音程差を調べてみればすぐに分かります。



つまり、Eメジャー・ペンタとC#マイナー・ペンタの構成音は同じもの。そして、C#マイナー・ペンタのキーを1音半上げるとEマイナー・ペンタです。

ということは、Eメジャー・ペンタをズルズルっと1音半上げてやれば同主調であるEマイナー・ペンタになるという事です。

それを踏まえてEメジャーとEマイナーのペンタの図をもう一度見比べてみてください。きっちり3フレットずれてる感じが分かってもらえると思います。